

なし品種「新星」の特性

1. 来歴及び育成経過

新星は、農林水産省果樹試験場において、翠星に新興を交配して育成された品種で、昭和57年に命名・発表された。当场では、昭和48年に「9-5」の系統名で導入し試作検討した。

2. 特性及び概要

樹勢は若木のうちは強いが、成木になるにつれ弱くなり、新しょうの発生も少ない。えき花芽の着生は少ない方であるが、短果枝の着生は良好である。

開花期は豊水よりやや早く、新興以外の品種と交配親和性がある。

収穫期は9月中・下旬で豊水よりやや遅いが、年によっては豊水とかさなることがある。平均果重は340g前後と大果のほうで、硬度は5ポンド以上と豊水に比べやや硬いが、糖度は12~13%と高く、酸味は豊水程度で食味が良好である。

果皮色は赤なしで成熟すると黄褐色となり、果形は卵形である。果実表面は、凹凸の発生がみられ、年によっては多発することがある。果実表面の凹凸の著しい部分は、苦みがありざらつく感じで食味は不良となる。また、有てい果の発生が多い品種である。

栽培特性をみると、収穫前生理落果及び軸折れはほとんどみられない。えそ斑点病には発現性であるが、黒斑病には低抗性の品種である。

表-1 新星の生育特性

年次	樹勢	新梢	短果枝	腋花芽	開花盛 月・日	収 穫 期 月・日		
		発生	着 生	着 生		始	盛	終
昭59年	ヤ強	少	多	少	5. 5	9. 26	10. 2	10. 11
60年	ヤ強	少	多	少	4. 23	9. 17	9. 25	9. 30
61年	中	少	ヤ多	少	4. 27	9. 17	9. 26	10. 3
62年	ヤ弱	少	ヤ多	少	4. 19	9. 14	9. 18	9. 18
63年	ヤ弱	少	ヤ多	少	4. 26	9. 26	10. 2	10. 5

注．樹齡は昭和63年度で17年生

表-2 新星の果実品質

年次	果重 g	硬度 ポンド	糖度 %	酸度 pH	収量 kg
昭59年	357	5.8	13.4	4.57	123
60年	336	5.5	13.3	4.60	132
61年	341	4.8	12.0	4.86	149
62年	309	5.0	12.8	4.51	161
63年	364	4.8	11.6	4.69	125

表-3 生育特性（豊水との比較 昭59～63年5年間の平均値）

品種名	樹勢	新梢	短果枝	腋花芽	開花盛 月・日	収穫期 月・日		
		発生	着生	着生		始	盛	終
新星	ヤ弱	少	ヤ多	多	4.26	9.21	9.27	10.2
豊水	中	ヤ多	ヤ多	多	4.27	9.12	9.24	10.2

表-4 果実品質（豊水との比較 昭59～63年5年間の平均値）

品種名	果重 g	硬度 ポンド	糖度 %	酸度 pH
新星	341	5.2	12.6	4.65
豊水	378	4.6	12.4	4.48

3. 成果の要約

新星は、9月中・下旬に収穫できる品種である。果実は340g前後とやや大果であり、食味がよい。しかし、年によって果実表面に凹凸の発生がみられる。

新しゅうの発生が少なく、えき花芽の着生も少ない方であるが、短果枝の着生は良好である。

なお、えそ斑点病に罹病性であるため、高接ぎをする場合は中間台になる品種がえそ斑点病を保毒しているかどうかを事前に確認しておく必要がある。

（担当者 果樹部 三坂 猛）